

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	上村 眞生	職名	准教授	学位	博士 (教育学) (広島大学 2012 年)
----	-------	----	-----	----	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
保育学 幼児教育学	保育の質 保育士のストレス・メンタルヘルス 保育士の労働環境 幼児期の食育

研 究 課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育士のメンタルヘルスに関する国際的状況 ・ 保育士の労働環境、社会的地位について、科学的根拠を基に改善について考察する。 ・ 教育効果に関する研究 ・ 幼児の言葉に関する研究

担 当 授 業 科 目
保育原理 (前期) 保育内容 環境 (前期) 保育内容 総論 (前期) 保育内容 言葉 (後期) 保育の表現技術Ⅳ (後期) 保育実習Ⅰ (通年) 保育実習Ⅱ (通年) 保育実習指導Ⅰ (通年) 保育実習指導Ⅱ (通年) 保育実践演習 (通年) 専門研究Ⅰ (通年) 専門研究Ⅱ (通年)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【保育原理】 保育の原理・原則を教授するに当たり、知識の提示に留まることがないように、関連する例題、ディスカッションを事前に行い、学生の中でイメージや考え、関心が喚起されてから、教授活動を行った。毎年受講人数の増減があるため、授業進行においてグループ化等に配慮している。
授業科目名【保育内容環境】 保育における環境構成の重要性に加え、保育内容「環境」の構成・展開方法を教授した。実践的な知識・技術の獲得のため、毎時間講義と演習を行い、演習中には直接指導をし、授業終了後は振り返りのための課題を与えた。各授業前後に各回の目的を提示することによる学習効果が見られた。
授業科目名【保育内容総論】 保育内容に関する最終的な演習科目としての位置付けから、学外での演習や演習内容の充実を図った。そのため、実体験に基づく理解の促進が見られるようになった。

<p>授業科目名【保育内容言葉】</p> <p>保育場面における言語環境の構成、子どもの言葉の発達を促すための保育方法について教授した。実体験を基にした学びを構築するために、言葉の発達を促す教具の製作等を行い、それを実際に使用する演習を中心に授業を進めた。</p>
<p>授業科目名【保育の表現技術Ⅳ】</p> <p>保育者として必要な身体表現に関する知識と経験を蓄積することと、乳幼児の身体表現を引き出す保育環境の構成、指導上の注意点について、演習後に解説し、理解を深めるよう工夫した。学生の身体活動の経験不足による課題達成困難を訴える者もいたが、授業評価アンケートからも概ね目標は達成できたと考える。</p>
<p>授業科目名【保育実践演習】</p> <p>保育実践力を養うために総合的な演習を実施した。4年間の学びの集大成という位置づけであり、内容的に非常に多岐・多様に渡っていたため、授業評価アンケートや学生の話から有用性は一定程度感じているものの昨年同様、「課題の量」については課題である。</p>
<p>授業科目名【専門研究Ⅰ】</p> <p>研究とは何かということを教授すると共に、学生の関心を引き出すために、毎時間ディスカッションを行った。また、毎回課題を設け、プレゼンテーションを課した。</p>
<p>授業科目名【専門研究Ⅱ】</p> <p>個人で研究テーマを決め、テーマに即した研究活動を支援した。研究の実施に加え、ゼミ内でのプレゼンテーションを課し、物事を客観的に捉え、他者に伝える力を養うことを心がけた。</p>
<p>授業科目名【保育実習指導Ⅰ・Ⅱ】</p> <p>保育実習を行うにあたり、必要な知識・技術だけでなく、社会人として、専門職としての振舞い等についても教授を行った。また、実習指導案や日誌については、演習を通して実践的な指導を行った。実習後の振り返りでは、個別指導に加え、全体報告会を実施し、実習内容を再確認するとともに、個別に必要な指導を行った。</p>
<p>授業科目名【保育実習Ⅰ・Ⅱ】</p> <p>実習先との連携をとった上で、保育実習中の巡回指導において個別の課題を抽出し、適宜指導・助言を行った。また、1日の実習終了後に学生個人が感じた課題については、その日のうちに助言するよう指導体制を採った。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会	特になし	2005年6月～現在に至る
日本小児保健協会	特になし	2006年7月～現在に至る
日本保育園保健学会	特になし	2007年8月～現在に至る
日本ウェルネス学会	特になし	2009年5月～現在に至る
日本乳幼児教育学会	特になし	2018年5月～現在に至る

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
特記事項なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
多声的保育評価の開発：子どもと保護者の声 を評価に導入する方法	科学研究費	○（松井 剛太） 上村 眞生 （松本 博雄） （水津 幸恵） （片岡 元子） （中西 さやか） （岡花 祈一郎） （大野 歩） （越中 康治） （佐藤 智恵）	200,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
九州地域における学生ネットワークの構築- 学生の主体的学びを促進するために-	西南女学院	624,000 円	

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
・福岡県青少年アンビシャス運動 砂山アンビシャス広場	ボランティア委員	2001年4月～現在に至る
・福岡県保育協会遠賀中間地区	研修コーディネーター	2018年4月
・福岡県保育士等キャリアアップ研修	指定講師	2017年～

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

- ・情報システム管理運用委員 2017年4月1日～現在に至る
- ・PHOTO部 顧問 2010年12月14日～現在に至る
- ・FD委員 2018年4月～現在に至る
- ・学生募集委員 2019年～現在に至る
- ・WEST管理責任者 2018年4月～現在に至る